

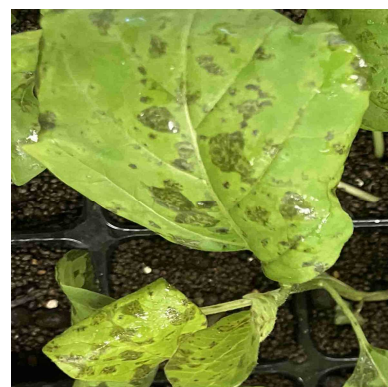
ナス黒枯病抵抗性系統の選抜



発病指数 1



発病指数 2



発病指数 3~4

写真 抵抗性検定における発病指数

発病度 = $\Sigma (\text{発病指数別葉数} \times \text{指数}) / (\text{調査葉数} \times 4) \times 100$

【発病指数】0: 発病なし、1: 病斑面積が葉面積の5%未満、2: 5~25%未満、3: 25~50%未満、4: 50%以上

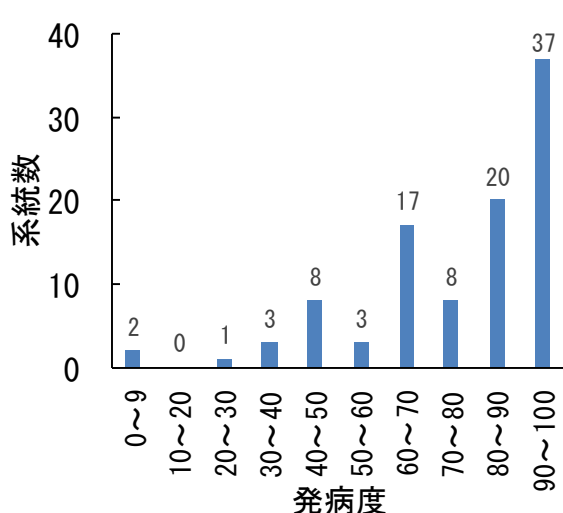


図1 黒枯病発病度別の系統数(一次検定)
注)3株平均値

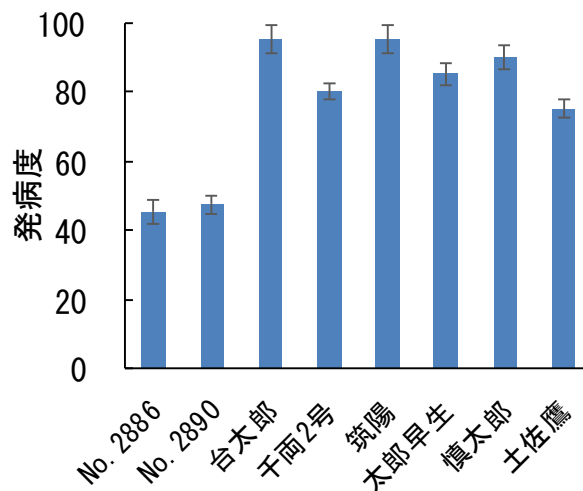


図2 品種・系統別の黒枯病発病程度
(二次検定)

注)10株平均値、エラーバーは標準誤差を示す

冬春ナス栽培における主要病害のひとつである黒枯病の抵抗性品種育成に利用可能な母本を選抜するため、世界のナスコアコレクション(Miyatake et al., 2019)100系統を供試し検定を行いました。

幼苗に黒枯病菌の懸濁液を噴霧接種して発病度を調査した結果、一次検定では発病度が高く黒枯病に感受性の系統が多く分布する傾向でしたが、発病度が60以下の17系統を有望系統として選抜しました(写真、図1)。

次に、一次検定で選抜した17系統に発芽しなかった1系統を加えた計18系統について、接種する菌の分生子濃度をより高くし接種圧を強くした二次検定の結果、慣行品種に比べ発病度が低い2系統を選抜しました(図2)。

今後、これらの2系統を黒枯病抵抗性の育種母本として活用していきます。

(園芸育種担当 中村美里・細美祐子
088-863-4916)